

桶川市歴史民俗資料館 資料解説講座

## 「八幡耕地遺跡に見る弥生時代の桶川」

開催日 9月27日(日)

会場 川田谷生涯学習センター 視聴覚ホール



約 2,300 年前に始まったという日本の稲作は、日本の文化を大きく帰ることになりました。

縄文の森に覆われた台地は、田畑として拓かれ、弥生時代の村は、やがて国作りに参加していることになります。

弥生時代後期の八幡耕地遺跡出土品をもとに、この時代の桶川について考えてみます。

## 1. 弥生時代とは

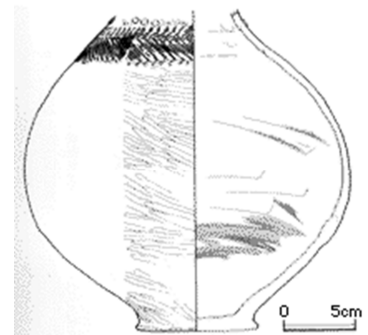
約 2,300 年前にはじまった稲作を生活の基盤とする弥生時代の文化は、北九州から関東に達し、桶川の低湿地も稲穂のなびく水田としてひらかれていきました。稲作農業は、森の恵みにたよっていた縄文時代の文化を大きく変えることになります。

稲作を行う人々は、力を合わせて水田をひらき、田に水を引いていきました。すなわち自然の一部を支配することによって暮らしをたてるようになったのです。また、農業開発を指導する長（おさ）が現れ、しだいに王へと成長していったのです。

### （1）弥生式土器

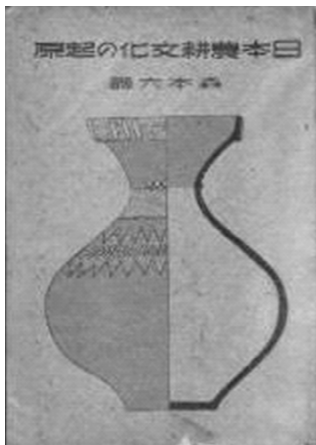
1884（明治 17）年、東京市本郷向ヶ岡弥生町（現東京都文京区）の貝塚で従来から知られていた縄文式土器とは違う土器が発見され、この土器を発見した場所の名をとって弥生式土器と呼ぶようになりました。

この土器を、発表したのは、東京帝国大学の坪井正五郎博士ですが、博士は、集古会という考古の会に属し、その集まりは、本郷にあった、埼玉の豪農、根岸武香（根岸友山の子）の別邸であったそうです。



### （2）弥生時代に稲あり」

「一粒の粃、もし地にこぼれおちたらば、遂にただ一粒の粃に終わらないであろう。」



昭和 8 年その当時の学界でとの学者も考えなかった「弥生時代に稲あり」という考えを『日本原始農業』という論文集として発表され、学界に一大センセーションを巻き起こしました。これが、巻頭に掲げたものです。しかし、生前この考えは誰にも相手にされませんでした。そして、最大の理解者であり、協力者であったミツギ夫人とともに 1936（昭和 11）年わずか 32 歳という若さでなくなりました。

同じく昭和 11 年の 12 月に奈良県の「唐古遺跡」の発掘調査がおこなわれ森本夫妻が命がけで追求してこられた「弥生時代に稲あり」という考えが実証されました。

また、森本氏は、稲作文化の所産である弥生式土器が、以下の三形態によって構成され、貯蔵形態である壺が美しく飾られていることに注目しています。

壺形土器＝貯蔵形態      甕形土器＝煮沸形態      高坏＝供献形態

また、昭和 18 年には登呂遺跡が発見され、弥生時代が稲作社会であることが次第に明らかにされていきました。

## （２）登呂遺跡について

### ○登呂遺跡の発見

昭和 18 年（1943）1 月

軍需工場建設中に発見

8 月～9 月 発掘調査・測量調査

昭和 20 年（1945）3 月

空襲をたびたびうけ、遺跡、遺構も被害を受ける

### ○登呂遺跡の調査

昭和 22 年（1947）7 月 遺跡の名称が登呂遺跡と決まる

7 月～9 月 第 2 次発掘調査

昭和 27 年（1952）特別史跡に指定される。11,600 m<sup>2</sup>

昭和 30 年（1955）『静岡考古館』開館

昭和 47 年（1972）『静岡市立登呂博物館』開館



## （３）弥生時代の歴史的位置づけ

弥生時代は、日本の新石器時代に位置づけられる時代です。

農業と金属器の使用が、新石器時代の文化要素といわれ、中国大陸の稲作農耕文化との関係がその成立の背景にあります。

日本の弥生時代のはじまりは紀元前 300 年頃、終わりは紀元後 300 年頃といわれています。



稲作文化の伝播経路



板付式土器 九州国立博物館

# 世界史年表 (B.C.1000—A.D.400)

|          | 日本 | 中国                            | インド・東南アジア               | 西アジア                             | エジプト・ヨーロッパ                                |
|----------|----|-------------------------------|-------------------------|----------------------------------|-------------------------------------------|
| B.C.1000 | 縄文 | 770 周が都を洛陽に移し、春秋時代がはじまる       |                         | 965? ソロモン、ヘブライ人の王となる             | 776 オリンピアの競技はじまる                          |
|          |    | 551 孔子が生まれる                   | 563? 仏教の開祖ブッダが生まれる      | 671 アッシリアがオリエント統一                | 480 サラムスの戦いでアテネがアケメネス朝ペルシアを破る             |
|          |    | 403 戦国時代がはじまる                 |                         | 586 新バビロニア、ユダ王国滅ぼす               | 431 ペロポネソス戦争はじまる                          |
|          |    |                               | 327 アレクサンドロス大王が西北インドに侵入 | 525 アケメネス朝ペルシア、エジプトを滅ぼしてオリエントを統一 | 338 アテネなどギリシアの連合軍、マケドニアに破れる               |
|          |    | 221 秦の始皇帝が天下統一                |                         |                                  | 334 マケドニアのアレクサンドロス大王、東方遠征に出発              |
|          |    | 202 劉邦が天下統一し、漢王朝が始まる          |                         |                                  | 332 アレクサンドロス大王、エジプトを征服                    |
|          |    | 176 楼蘭、歴史の舞台に登場               |                         |                                  | 264 第一次ポエニ戦争、ローマの台頭                       |
| 0        |    |                               |                         |                                  | 250頃 ヘレニズム文化栄える<br>エウクレイデス、アルキメデスが活躍      |
|          | 弥生 | 25 後漢王朝はじまる                   |                         |                                  | 30 プトレマイオス朝エジプトがローマに滅ぼされる<br>クレオパトラ自殺     |
|          |    | 57 倭国が後漢に朝貢して金印を授与される         | 130頃 カニシカ王即位            | 4頃 イエス・キリストうまれる                  | 9 ローマで大土木工事                               |
|          |    |                               | 150頃 大乘仏教盛んになる          |                                  | 64 ローマの大火で皇帝ネロ、キリスト教を迫害                   |
| A.D.200  |    | 208 赤壁の戦いにより、天下が三分され、三国時代はじまる |                         |                                  | 235～284 ローマ軍人皇帝時代はじまる                     |
|          |    | 238 邪馬台国の女王卑弥呼が魏に使いを出す        |                         |                                  |                                           |
|          | 古墳 | 266 倭の女王卑弥呼が西晋に使いを出す          |                         |                                  |                                           |
| A.D.300  |    | 280 晋、中国を統一                   |                         |                                  |                                           |
| A.D.400  |    | 398 北魏の建国                     |                         |                                  | 313 コンスタンチヌス帝、キリスト教を承認<br>395 ローマ帝国、東西に分裂 |

遠賀川式土器 弥生時代前期





### 3. 八幡耕地遺跡第1次調査のこと

#### (1) 第1次発掘調査について

桶川の弥生時代遺跡は、現在のところ、川田谷の江川と石川の流域から発見されています。その代表的な遺跡が、昭和56年に発掘調査が行われた八幡耕地遺跡です。

昭和56年、川田谷松原の八幡神社の境内に、集会所が新設されることになりました。その折、松原地区の方々の協力を得て、発掘調査が行われたのが、「八幡耕地遺跡」の調査の始まりです。

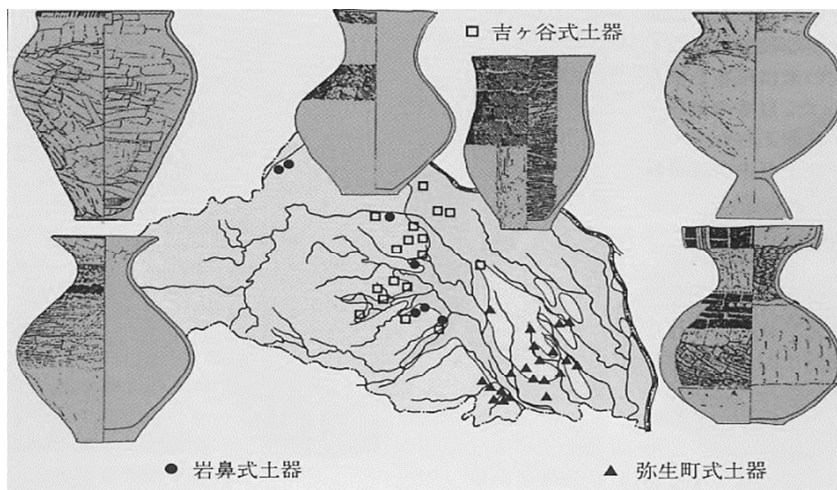


この遺跡から、弥生時代後期の住居跡の一部が発見され、累々とほぼ完全に復元できる土器が発見され、その中には、29個の壺形土器が含まれていました。



#### (2) 土器の交流

大きなものは90センチを超え、また、比企地方に主に分布する吉ヶ谷式土器と、南関東に広く分布する弥生町式土器という異なる系統の土器が発見されました。



#### 4. 長（おさ）から王へ

農業が始まり、水利や農業指導をとおして、村々は連合し、クニの原型が形作られています。

##### （1）銅鐸絵画と土器絵画

当時の社会の有様を銅鐸や土器に描かれた絵から読み解くことができます。



楼閣を描く土器破片  
唐子・鍵遺跡（奈良県磯城群田原本町）出土

##### （2）ムラからクニへ 一環濠集落と倭国大乱一

小国に分かれていた倭国は、互いに争い、さらに大きな政治集団への成長していきます。その過程で、溝を巡らし、防衛をするムラが生まれきます。

互いに争う倭国の国々の姿が中国の歴史書に現れます。

##### ○倭国大乱

『後漢書』巻 85 東夷列傳第 75

「桓靈間 倭國大亂 更相攻伐 歷年無主 有一女子 名曰卑彌呼 年長不嫁 事鬼神道 能以妖惑衆 於是共立爲王」

桓帝と靈帝の間（146 年 - 189 年） - 倭国大乱。『後漢書』

景初三年（239 年） - 卑弥呼、初めて難升米らを中国の魏に派遣。魏から親魏倭王の仮の金印と銅鏡 100 枚を与えられる

## 5. 熊野神社古墳とその時代

古墳時代に熊野神社古墳が、川田谷の南端、江川にそって広がる水田を見おろす台地に築かれて以来、桶川の歴史は、日本の国づくりの歴史とともに歩みはじめるのです。

熊野神社古墳は、4世紀後半に築かれた円墳です。古墳時代の前期にあたるこの時代には、大王と呼ばれた大和地方の大家族を中心として各地の豪族が結びつき、近畿地方を中心として九州から東北地方南部にわたる全国に、連合のあかしとして古墳が築かれていったと考えられます。

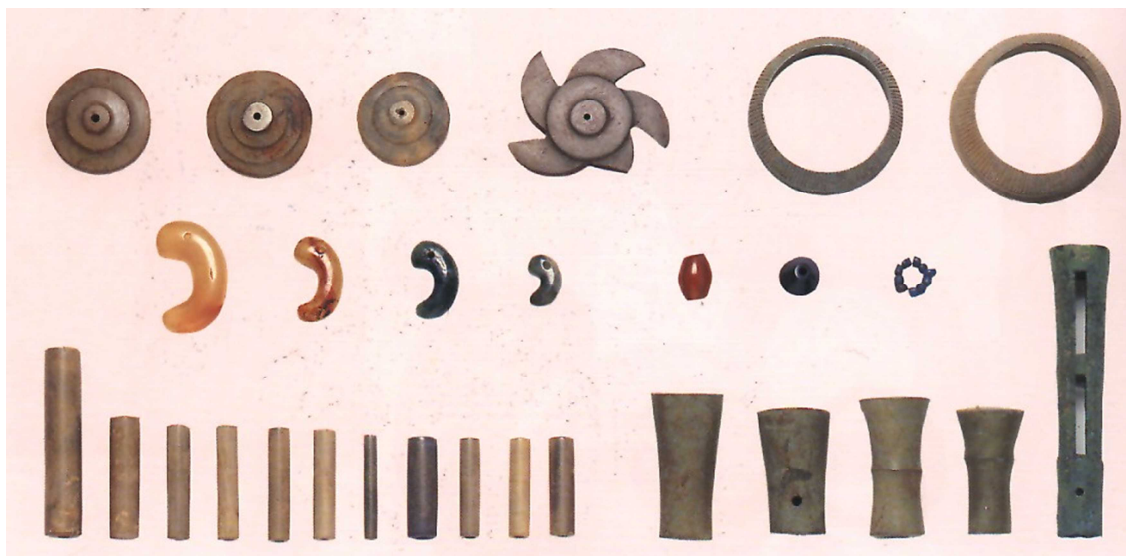
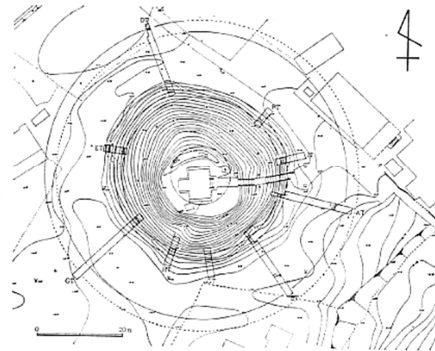
熊野神社古墳に葬られた人物は、荒川（入間川）の下流域の盟主としてこの地方を統合し、大和を中心、とする豪族の連合に埼玉県内でもいち早く加わっていったとみられます。

熊野神社古墳出土品（国指定重要文化財）は、昭和3年（1928）に熊野神社社殿を改築するため、古墳の頂上を整地したところ出土したものです。

これらは大和の勢力から与えられたものと考えられ、なかでも大形の管玉、筒形石製品、石製紡錘車は、支配者の象徴というべき玉杖の一部と考えられます。

また、近年、再調査が行われ、その年代は、4世紀の後半に位置付けられることがわかっています。

この時代は、前方後円墳、円墳といった古墳の規模や形で、全国の首長がヤマト政権に秩序だてられたと時代とされています。



●参考資料 西からやってきた土器 ―宮ノ脇遺跡出土土器

桶川市の東、加納地区の宮ノ脇遺跡からは、熊野神社古墳よりも少し古い4世紀の初めのころの土器が出土しています。これらの中には、西日本からもたらされた土器が見られます。

